

## お知らせ

N E W S

発行：2025年2月

● Topics…山形大学医学部附属病院 地域連携会を開催

● 取組案内1…皮膚科 ● 取組案内2…精神科

附属病院の最新の医療を紹介する広報誌VOL.28が出来上がりました。これを機会に当院の医療を知っていただき、地域のリソースとして有効に活用していただければと思います。

Topics

## 山形大学医学部附属病院 地域連携会を開催

令和6年度山形大学医学部附属病院地域連携会を11月16日(土)、山形市パレスグランデールにて開催しました。この地域連携会は、紹介・逆紹介の関係にある山形県内の医療機関の皆様へ、特定機能病院である当院の特性や機能を知っていただき、密な連携を一層強化することで、地域医療水準の向上を図る目的で開催しております。今回は昨年度を上回る県内69の病院・診療所の医師・職員の方々にご参加いただき、当院の医師とあわせて128名の出席者による連携会となりました。

土谷順彦病院長の挨拶で開会し、山形県医師会 間中英夫会長からご挨拶をいただきました。当院からの情報提供として、地域医療連携センターから紹介者数、逆紹介率、入院患者数などの実績について櫻田香副センター長からご説明し、大学病院からのお知らせとして、渡辺昌文センター長から「医師の働き方改革に伴って変わったこと、変わらないこと」についてお伝えいたしました。また、私が「難聴と認知症『補聴器・人工内耳・内視鏡手術による対応』」と題して講演をさせていただきました。さらに、土谷病院長が医療機関から頂戴した質問にお答えするQ&Aコーナーを設けるなど、参加者の皆様との活発な意見交換が行われました。

地域連携会終了後には情報交換会が開催され、ご出席いただいた医療機関の先生方や職員の皆様と当院の医師で直接顔を合わせながら、和やかに意見交換が行われ、事後のアンケートでも大多数の先生方より有意義な連携会・情報交換会であったとご評価をいただいております。

今後も、地域の医療機関の皆様との連携を深め、患者さんが安心して医療を受けることができる環境作りに取り組んでまいります。ご出席いただきました皆様に、重ねてお礼申し上げます。

地域医療連携センター 副センター長 伊藤吏



連携会での活発な意見交換



情報交換会の様子



## 取組案内 1 皮膚科

### 尋常性白斑と皮膚腫瘍、そして、診断困難症例、難治性疾患はご紹介ください。

皮膚科では、地域の皆様に先進的かつ高水準な医療を提供するため、診療、研究、教育に一体的に取り組んでおり、専門性の高い診療科として、特に診断が難しい症例や難治性の皮膚疾患に対応しております。

幅広い皮膚疾患に対応する中で、特に尋常性白斑の治療に注力しています。この疾患は、皮膚表皮のメラノサイトの消失による色素脱失が特徴であり、患者さんの生活の質(QOL)に大きな影響を及ぼします。

私たちは、尋常性白斑治療において国内外の先進的な治療法を積極的に取り入れており、現在、国際共同治験の一端を担い、新しい治療薬の有効性と安全性を検証しています。また、紫外線療法(ナローバンドUVB治療やエキシマライト療法)を駆使した個別化治療を行っており、多くの患者さんに改善をもたらしています。

皮膚がんの治療は当科のもう一つの重要な診療分野です。当科では、有棘細胞がん、悪性黒色腫を含むさまざまな皮膚悪性腫瘍に対応しています。特に、早期診断に力を入れ、患者さんの治療選択肢を広げることを目指しています。治療においては、手術療法、化学療法、放射線療法、免疫療法などを組み合わせた集学的治療を実施しています。腫瘍の種類や患者

さんの状態に応じて最適な治療法を提案し、必要に応じて他診療科と連携して総合的なケアを提供します。

さらに、自己免疫性疾患、皮膚悪性腫瘍、難治性アトピー性皮膚炎などの診療にも力を入れております。

地域医療の中核として、先進的で質の高い医療を提供し続けることを目標とし、今後とも皆様との連携を深めながら、地域医療の発展に貢献してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



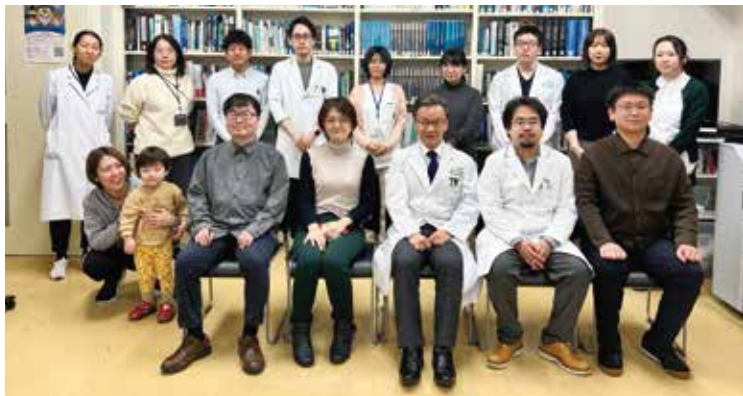
2024年9月21日に山形テルサで開催した第6回日本白斑学会・第4回東アジア白斑連合同学術大会にて。海外から20人以上が参加しました。

## 取組案内 2 精神科

### 子どもからお年寄りまで、メンタルヘルスのご相談に対応します

山形大学医学部附属病院精神科では、地域の医療機関と連携し、子どもから高齢者まで幅広い年齢層のメンタルヘルスケアに取り組んでいます。患者さん一人ひとりに適した診療を提供するため、特に以下のようなケースについて、ご相談やご紹介をお待ちしております。

1. 治療抵抗性うつ病や老年期初発の精神疾患で、MRIやSPECT、DaT Scanなどの詳細な画像検査を行い鑑別が必要な場合
2. 治療抵抗性統合失調症でフロザピン治療を検討している場合
3. 治療抵抗性うつ病や緊張病において、修正型電気けいれん療法が求められる場合
4. 失語や神経症状を伴う非典型的な認知症の精査が必要な場合(MRI、核医学検査、神経心理学検査を含む)
5. アルツハイマー病による軽度認知障害や軽度認知症で、新規治療薬(レカネマブ、ドナネマブ)の投与を検討している場合
6. 心理検査や家庭での対応、学校との連携が必要な小学生、または神経発達症に対して知能検査が必要な場合
7. 身体管理や入院治療が求められる摂食障害や、精神疾患を合併した妊産婦のサポートが必要な場合



これらに該当しない場合でも、診断や治療にお困りの際はぜひご相談ください。当科では、患者さんとそのご家族が安心して治療に専念できるよう、丁寧な診療と最新の医療知識をもとにした治療方針の実施を行っています。

#### お問い合わせ先

山形大学医学部附属病院精神科外来  
電話番号:023-628-5505